1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390810077		
法人名	NPO法人安暖手		
事業所名	グループホーム大道		
所在地	熊本県山鹿市方保田828-2		
自己評価作成日	令和7年2月23日	評価結果市町村受理日	令和7年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和7年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の気持ちを大切にその人らしい暮らしを支えます。開設の時に皆で考えた理念を忘れずに縁ある方々と過ごす時を大事にします
地域との活動を再開し赤ちゃんからお年寄りまでが繋がる共助の地域づくりを目指して行事や活動を計画実行していきます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームに開所以来受け継がれてきた基本姿勢は揺らぐことなく継続され、入居者、家族、地域、職員への熱い思いが新たに理念に加えられており、「その一瞬一瞬を大切に共に生きる」を普段の入居者との生活の一コマにも反映させている。本年度は計画していた阿蘇へのバス旅行が実現し、家族や地域、併設する訪問看護職員等の協力を得て入居者に遠出の外出が支援されている。ホームを最期の場と望む方が大半であり、一人ひとりの思いが込められたプランに沿い、普段通りの生活を支援しながらも、大事なひと時一コマを入居者自身のこれまでの暮らしぶりや言葉から拾いながら対応するようにしている。安定したケア方針は家族や地域からも信頼されることであり、入居者が地域との繋がりが社会性をもって生活する基盤作りに邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々振り返ることや全体会議時に共有できている。また一年に一回は理念についてのアンケートをとり現状との差がないか確認の場を設けている	ホームが当地域に開所して以来、入居者、家族、地域と一緒に働く職員への姿勢は変わらず継承され、これまでの「その一瞬一瞬を大切に共に生きる」に昨年4月にはホームを取り巻く全ての方々への熱い思いが込められた文章を追記している。その内容の一つひとは「共に生きる」に繋がるように努力しており、その足跡は家族や地域からの評価、信頼となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動への参加はもちろん次年度より地域とのイベントを企画しているところだ。 地域の氏神様への新年の挨拶と初日の出を地域の方々と拝むことが日課になっています(寒さもあるのでスタッフのみ)・地域のサロンへの参加	ホームでは地域との繋がりを大切にしており、回覧板や運営推進会議の情報を外出先に反映し、散歩中に出会った方との立ち話も馴染みの光景となっている。初詣にはそれぞれの入居者に馴染みの神社へ出向き、「そうそこたい！」と喜ばれる等、地区のどんどやと合わせ入居者には懐かしいひと時となっている。管理者は赤ちゃんからお年寄りまで繋がる地域を目指して「まめっこくらぶ」の立ち上げを地域へ向けて発信し、「だれでも参加できるクラブ活動」と位置づけ地域活性化に助力したい考えである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防拠点活動や小学校への認知症サポーター研修、サロンでの啓発等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この度の会議ではホームの防災について検討した。活発な意見を頂いた。そのご意見が実行可能か市に相談している	本年度は感染症発生の関係等から2回の対面開催以外は、参加者への議事録送付による書面審議としている。直近の会議には行政をはじめ警察署や地域の代表者、家族等がメンバーとなり、入居者は感染症予防の状況から参加は控えている。事故報告は発生要因や対応策までを詳細に伝え、身体拘束については勉強会の内容について報告している。地域の代表者からは夜間の二人体制や有事の際の地域との連携などについて意見や提案が出されている。	参加した警察署の担当者からは、管内での事件や空き巣被害、詐欺事件等について話をされており、参加者にとって身近な危機管理に対する情報を得る機会となっている。今後も機会があれば地域の安全に対する情報がもたらされればと考える。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問に思ったことなどはすぐに相談するようにしている	行政から運営推進会議に参加された際には、参加者の質問に応じてもらいながら、行政、地域、ホームが一堂に会して情報発信と課題解決に向けた意見や提案を収集しながら、推進会議本来の運営が出来ている。事故報告書は行政に直接出向き、認定調査には職員が立ち会いながら入居者の普段の様子をありのままに伝えるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ行う。身体拘束について定期的に勉強会を行っている。不適切なケアについても見直す機会をもっている	身体拘束や虐待については勉強会の内容を運営推進会議で報告してホームの状況を伝えている。ホームでは入居者への尊厳について特に大切にしている部分であり、運営推進会議の中でも一人ひとりの最期の支援についても話をしており、日々の支援では言葉遣いについて過去の事例等を通して入職した職員と一緒に考える等、言葉の選び方、使い方について学んでもらうこととしている。	身体拘束及び虐待についての指針は、ホームの姿勢を示すものとして玄関等に掲示されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催することと普段からスタッフのストレスチェックにも意識し勉強会の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護によりその人らしい暮らしの継続ができています。デイサービス利用者の方を通して知る機会となっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の相談や見学の機会をもち信頼関係を築く機会になると考える。契約に関しても十分に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やLINEなどご家族にホームの日常を伝え要望があった際には記録に残す事や申し送りを通してスタッフ間で共有している	ホームが発行する広報誌は、漬物作りに精を出す入居者の姿や散髪の様子、新年を迎える準備(餅つき・年賀状書き・お節作り)等、在宅時と変わらない日常を伝えており、家族の楽しみの一つとなっている。本年度は家族や近隣住民も参加し、訪問看護に同行してもらい阿蘇の草千里への日帰り旅行が出来ている。昨年夏の猛暑による庭の手入れが出来なかったことに気づいた家族が道具持参で作業をされる等、ホームとの関係性が窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションを取りながら報告・連絡・相談している 全体会議はもちろん日頃よりスタッフの意見や提案は大切にしている	月の全体会議以外に職員は日常的にホーム運営や入居者支援の向上に繋がる意見を自由に出されており、職員体制についても「もう一人いたら」等、支援に直結する事については特に早い対応を心掛けるようにしている。職員の希望休や有休についても取得しやすい体制としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表も現場に入る機会もあるためスタッフの思いや考えは知る機会も多い。今後もスタッフ一人一人の個性を大切に活かせる環境を整えたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は実施できているが法人外の研修の確保が難しい現状がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と行事を企画し交流を図れている 今後は勉強会なども実行できればと考えている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報だけでは不十分のためそれを頭にいれつつ普段の会話や表情、声のトーン、入浴時のリラックスできている時などの会話も大切にしている 「大切にしていることシート」の活用		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや意向など関係づくりに努めながら必要なことはスタッフ間でも共有している。話しやすい雰囲気づくりや言葉かけに気をつけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム入所が適していない時には別の事業所を紹介したり情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意なことを把握し共生に努めている。やる気や喜びにつながり補い合える関係性を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族あつての私達であり利用者にとって一番大切な存在であることは忘れないようにしている。お互いに尊重し合える関係性		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の記憶からひもとき実際に出向いてみたりすることもある 馴染の場所への初詣など	一人ひとりの入居前の背景や、趣味、得意とされることをホーム生活に反映するようにしている。正月の初詣には入居者に馴染みである数か所の神社に出向き、見覚えのある風景に喜ばれたり、読み慣れた新聞への拘りなどにも対応している。山鹿の昔に詳しい入居者の記憶をもとに商店街マップを作成し、古き良き時代を振り返ったり、干し柿や漬物作りには先人の知恵が生かされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士のあいさつや役割分担時の声のかけあい、スタッフが間に入るタイミングなどチームプレーでフォローしています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	命日時のLINEや近況報告等行っている。 時々遊びに来て下さるご家族もいらっしゃる SNSで繋がっている方も多い ホームの草取りや畑のお世話をして下さる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが決めつけてしまわまいように本人との対話を大事に確認している。難しい時には以前の本人からの言葉やご家族からの情報をもと検討している	職員は普段の関わりから生活への思いや希望を聞き取っており、入居者の言葉を尊重しながら対応できることは早めに取り掛かるようにしている。日中の生活を共に過ごすリビングからは終日笑い声や賑やかな声が聞かれており、入居者自身も職員との関わりの中で思いを自由に話されるようである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報や生活歴を把握しケアを実行している。新たな情報は記録にてスタッフ間での共有を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一人一人の気づきを通して現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりや本人やご家族の意向を把握しスタッフそれぞれの気づきを大切に情報を共有し計画を作成している	初回プランは入居直後から「きづきノート」をもとに、食事や移動手段、排泄、その他必要な支援内容について、できる事できない事、わかる事わからない事を入居者の生活の中から収集している。家族から得られた入居者自身の思いやこれまでの暮らしぶり等をプランに反映して立案し、月の会議で職員意見を収集して3か月後のモニタリングには担当者ケアマネジャーが対応し、支援の方向性を見極めるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことは共有し意見を聞き何が良かったのか、悪かったのか実践してみないとわからない事が多い。実践してからの情報もしっかり共有しみんなで考える「本人がどうなのか・・・」が大事		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「事業所だから・・・」や「デイだから・・・」などを理由にお断りはせず「どうやったら出来るか」を考えます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書では利用者の好みや文字のサイズが大きい物を準備して下さる 防災のための繋がりも踏まえ今一度地域との繋がっていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所前の主治医を継続している 必要に応じて病院へスタッフも同行したり情報提供書を準備したりしている	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、受診や訪問診療が行われている。受診は基本的に家族の対応としているが、ホームでも柔軟に応じている。受診結果はできるだけ当日伝える事で家族が安心されており、ホームの配慮が窺える。受診に向かわれている方が看取り期に入られた場合は、訪問診療対応の主治医に変更されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の健康チェック以外にも適宜不安や心配なことはいつでも相談している。助言を頂きご家族と相談しながら決めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時にはこまめな面会をしていたがコロナ以降それは難しくなった。連携室へ事前に挨拶をしておき情報を頂くようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時点で終末期に対してご家族の意向がどれくらいあるのかを確認したうえで話をすすめていく様になっている。	入居時に重度化・終末期支援に関する取組を説明し、家族の意向を確認したうえで話が進められている。現在、全員がホームでの最終を望まれており、職員は日常の関わりを大切にしながら入居者・家族の思いに応え、悔いのない看取りにチームワークで取り組んでいる。看取り中の記録は段階によって変えており、看取りで嚥下困難になられた方に好みの焼酎を氷にして口に含んでもらう等ホーム独自の取組が聞かれた。この一年で看取り支援が行われた際の振り返りでも悔いはなかったことなど職員の声まとめられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会において実践の場を設けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的実施できている 地域との防災時の連携については少しずつ進行している	火災訓練を定期的実施しており、1月の訓練では通報がうまく職員に伝わらなかったことが課題にあがっている。自然災害は机上訓練を行っており、ホーム自体は水害の心配はないが、通勤途中来れなくなる職員の道順について検討されている。備蓄は台所にローリングストックと、地域交流室や備蓄庫で確保されている。	BCPの共有と見直しを今後も進めたいとしており、取組に期待したい。現在、宿直制について検討中であり実現が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのペースに応じて対応しているがスタッフの気持ちの余裕やスキルによって違いが生じている。	職員は入居者同士、入居者と職員の軽快なやり取りの中からも一人ひとりの声を聞き取り、その方らしい支援が出来るよう努めている。呼称は苗字にさん付けや、中には本人や家族も希望される呼び方を伝えられている。身だしなみやおしゃれは「その人らしさ」を大切に支援しており、化粧品(眉を描く等)や小物(スカーフ等)、ヘアピンを使用する等サポートしている。ヘアカットは現在、主に訪問理容で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に「待つこと」を大切に本人の気持ちを引き出すように心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やりたいこと・やれる事を話しあいできるだけ利用者さんの声を聞き実行しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「その人らしさ」を大切に個人の小物(化粧品・スカーフ・ヘアピンなど)も活用し身だしなみに気を付けている。洋服は本人と一緒に選ぶようになっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物は普段の話しや夜の女子会などで意見を聞いています。食事の準備～片付けまで役割をもち取り組んでいます 自分の分を多くついたり楽しまれています	職員による献立、調理は継続され、入居者にとって楽しい食事支援となっている。自ら食べたいものを伝えられる方は少ないようであるが、希望があればその都度献立に取り入れている。野菜は地域や家族等からの差し入れも活用され、魚は鮮魚店からの品を使用している。個々の嚥下力に応じてカットしたり、ご飯も食欲に沿った大きさの茶わんに盛られている。入居者は下ごしらえやつぎ分け、茶わん拭き、味見や火の番など様々な出番を自ら希望されたり用意するなど、ホームならではの取組が継続されている。	おやつも入居者の好物であるさつま芋を使ったり、ホットケーキや団子をはじめ、郷土料理のとじこ豆など手作りは特に喜ばれている。職員も希望で同じ食事を摂っており、思いを共有でき気づいた点は今後活かされている。入居者の楽しみ、家族の安心に繋がる食事支援の継続に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は水分チェック表を用いて確認する場合があります。水分量が少なくなっている方は好みの物を準備することで確保できる場合も多いです		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝いちならば受け入れることができる方もあり声かけのタイミングも併せて支援している 必要な時には歯科往診を依頼している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のタイミングや動き、表情、排尿間隔を確認して誘導しています。オムツ着用の方でも希望があった時にはできるだけ早く対応できるようにしている	日頃の関わりから職員は個々の排泄の間隔、表情、声掛けのタイミングを見ながら誘導している。コロナ禍移行布パンツから尿取りを併用しながらリハビリパンツを使用される方が増えているようである。トイレは4か所設けられ、時間帯に応じて居室の近くや慣れた場所を使ったり、夜間のみポータブルトイレを使用される方もおられる。自然排便に繋がるよう食事には野菜を多く使用し、適宜の運動、朝には手作りヨーグルトを提供している。また、水分補給もお茶、紅茶、コーヒー、レモンティー、甘酒など好みや季節も考慮し提供されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りヨーグルトや繊維のある食べ物、動くこと等できるだけ自然な排便を促すようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員不足のため完全に希望に添うことは難しい 入浴のタイミング等はスタッフ間で協力しながら行っている	完全に入居者の希望に沿った入浴は難しい現状であるが、身体状況に応じリフト浴を活用しながら週2～3回支援している。シャンプー類はホームで準備しているが、好みの物を個人で用意される方もおられる。以前は入浴を楽しみにされていた方が、最近はあまり好まれず週1回のペースとなっており、清拭を併用しながら清潔保持に努めている。ホームの庭には柚子の木があり、冬至の際には柚子を収穫し季節湯を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、明るさ、玄米パック等を活用し安眠に繋がるように支援している。 日中の休息は個人によっても日によっても変わる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事表を確認し把握に努めている 服薬支援に関しては準備、服薬までに三段階でのチェックを行う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	看取りで嚥下が困難になってきた方へも焼酎氷を作ったり、食欲がない方へは好みの物を準備し少しずつ食事量を上げる ことへ繋いだりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夜の女子会で話がでた「おいしいお肉を食べたい」希望を叶えるためにご家族や近隣の方も一緒にバスハイクを実施した 日常的な外出が人手不足もあり実行が難しくなっている	日常的な外出は職員配置の面から難しい状況であるが、敷地内や近隣の散歩、玄関先での日光浴は変わらず取り組むことが出来ている。今年度は入居者から出された「美味しい焼き肉を食べたい！」の一言から、家族や近隣者も一緒に阿蘇へのバスハイク(焼肉・草千里・阿蘇神社)が実現している。その際、訪問看護師も同行し、安心な旅となっている。	次回バスハイクを行う際は、今回の反省を踏まえ入居者のペースで行動できるようにホームの方でスケジュール案を出していきたいとしている。今後の取組が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を希望される方が減っており現在は対象の方がいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方はスタッフの支援により毎日娘様へ電話をされている 手帳を使って娘様へ思いを伝える方もいる 文字を書く機会は多く持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに季節の花を飾ることで香りを感じて頂く。旬の野菜を頂いたら皆で見えて触って香って五感で感じることを大切にしている 玄関には年毎に利用者さんの書初めを月毎に飾っている	ホームの庭は家族の協力も受けながら手入れされている。訪問当日は開設時に植樹された枝垂れ梅が満開で入居者も散歩中やデッキ、リビングから眺められるようである。テーブルには庭先に咲いた花や散歩中に摘んだ草花を飾ったり、差し入れなどの旬の野菜を見て、触れるなど五感を感じる取組は開設時から自然な流れとなっている。リビングの席は入居者の身体状況や相性を考慮して決定され、読み慣れた新聞を広げる方、テレビを見たり料理の音を聞きながら職員と和やかな会話の光景等ホームの日常が窺えた。	ホーム内は入居者の穏やかな時間を大切にしながら継続して換気をはじめ必要な感染対策が施されている。職員自身が入居者にとって大切な環境となっており、変わらぬ支援の継続に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休息のためのベット、廊下など一人で過ごす空間がある。 ソファや人数の少ないテーブルなどその時その時で配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしい部屋になっている場合が多いが 物があることで混乱される場合は状況に応じて工夫している	居室への持ち込みの品について管理者は自宅にあった馴染みの物があると安心される方もおられるが、「何でここに家の物がある?」と逆に戸惑いを口にされる方、何もないと殺風景で慣れられない方の二通りがある事を伝えている。ホーム内の居室はその方に応じて家族と職員が連携し、入居から少しずつ持ち込まれたり、不要であれば持ち帰ってもらう等その時々で一番居心地の良い部屋となるよう検討されている。衣替えも家族に依頼したり、ホームが中心に行う等個々に応じて支援されている。	居室へは馴染みの品の持ち込みを依頼しがちであるが、逆に戸惑われる方など一辺倒離ではない入居者の気持ちを代弁した取組である。どの部屋もこれまでの趣味や特技、家族の思いが感じられる。継続した取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の行動を制限せずに一人一人に応じた行動を見守り安全に過ごせるように自然な形で見守りや付き添いを行っている		